

08.建築物のエントランスアプローチ・ファサード



写真：ゲート型



写真：キャノピー型



写真：植栽型

—ゲート型—

ゲート型の出入口は通りの対面側からも視認性を高めるよう、二層、あるいは三層を貫く大きなアーチが計画されていた。出入口は少しセットバックしており、ポーチとしての役割も兼ねている。この種の出入口は樹木が植えられていない大通りに多かった。例えばエンパイアーステートビル、クライスラービル、ダコタアパートメントなどが該当する。(写真：クライスラービルのエントランス)

—キャノピー型—

キャノピー型の出入り口は、ホテルや共同住宅の出入り口に多い。道路に対して垂直に飛び出したキャノピーはタクシーを降りてから雨に濡れない様に配慮するとともに、建物の入り口を示すサインとしても十分な効果を発揮していた。

—植栽型—

植栽型は出入り口の前に植栽ポッドをおいている。個人店舗や住宅の出入口に多い。必ず出入口を挟んで配置されており、植栽は一本の低木を植えたり、何種類かの樹木を組み合わせたり、所有者のセンスが問われる場所だった。また、出入口から出て来た利用者が、歩行者と交錯しない様にも配慮されているようだ(繁田 尊友)